

沖縄語 かわら版

沖縄語を話す会会報

第8号

2006年10月15日発行

会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 眞正



2006年7月1日 夏の宴「高田普次夫さんのとーかちお祝い」

「^{おきなわ}沖縄語を話す会」^{ご はな かい}月に二回集ま^{ちち た けーんあち}てぬ勉強会、^{びんちよーらい}品川^{しながわ}ぬ大崎^{おーさき}をて

・^{わらび}童^{ちゃー}ん達^{いかさ}んかい戦^{くどちて}ぬいちゃしー事伝ーやびら-----仲門勇市

・^{うちなーたび}沖縄旅-----（y）

・^{かわさき}川崎^{んかし}をてぬ昔^くぬ暮らし-----座覇光子

- ・会報に出てきた語句の説明
- ・会報の表記について その
- ・事務局から

ホームページ <http://www.wvq.jp/p/>

染料インクを使用しています。水濡れにより、変色したり印字がにじみますのでご注意ください。

わらび ちゃー いくさ いくさ ことちて
童ん達んかい戦ぬいちゃしー事伝ーやびら

仲門勇市 (那覇市)

なま わ 我んねー、まー 何処がなんてる 図書館をて、ちち た
今、我んねー、何処がなんてる図書館をて、月に二

けーんわらび ちゃー けーんわらび ちゃー けーんわらび ちゃー
回童ん達とまじゅん「紙芝居」なぞなぞ遊び、

えほんあそ 絵本遊び、さーに楽しんで暮らちよーいびーん。

くねーだ くと 此間ぬ事やいびーしが、しるち はた あなくわらば しがた
此間ぬ事やいびーしが、白地ぬ旗ぬ女童ー姿

しらばた 白旗をかかげて、んて言う紙芝居見しやびたくと、

わらび ちゃー いくさ うと くと ちくしょー
童ん達や、戦ぬ恐るしー事、畜生きーなーする

くと 事、うりから、いちゃしー事聞ち、なだう
事、うりから、いちゃしー事聞ち、涙落とちよーい
びーたん。

わ 我んねー、うぬ 涙落とちよーる 童ん達 姿見ち、

いっぺーちむんじゅ 一杯肝動かさりやびたん。

わらび ちゃー いくさ うと くと みー めー
うぬ童ん達んかえー、戦ぬ恐るしー事ぬ目ぬ前

んかい、見ーゆる如どあたる筈やいびーん。

かみしばい う 紙芝居終わて、あど わらび ちゃー
紙芝居終わて、後、童ん達んかい、ちゃーやたがん

ち問ーて見じゃびたん。

あんさびたくと、「何んち大人ぬ達や、戦すがや

ー。」何んち兵隊ー、童ん達殺すがやー。」うぬ訳

ー何やがんち問ーらつて、ちゆゑー事やいびーたん。

わ 我んねー、童ん達んかい問ーらつたる事にちーて、

てー ちなーちなー受き返答さびたくと、わらび ちゃー
ちなーちなー受き返答さびたくと、童ん達や

まくと みーくち 誠な目口っし取い受きとーいびーたん。

わ 我んねー、本当ぬ事解て呉たがやーんち、どー いる
我んねー、本当ぬ事解て呉たがやーんち、胸くる言ち

はいん はん やい反ちやいさがちー合点さびたん。

めーにんるく谷ち に じゅーさんにち いくさ いくさ ことちて
毎年六月二十三日ぬ「慰霊の日」迎ーいびーね

一、「戦ー志情けー無ーらん無情な事」うりから

「戦ぬ無ーらん灘安さる世大切にしーびちー事」に

ちーて、あらた みて かんげ 考ーいがちー、まぶい むい ちが
ちーて、改めて考ーいがちー、魔文仁ぬ盛をて、挿ど
ーいびーん。

また、「慰霊の日」まんぐろー、こーみんぐん としよんを

て女親ぬ会そーな揃ぬ中心んかい立ち、話す

る会持ちちよーいびーしが、わ 我んねー、んまをてん 童

ん達んかい「戦ー志情けー無ーらん無情な事」

「命大切にしーびちー事」うりから「戦ー無ーら

ん灘安さる世」にちーて、語て聞かちよーいびーん。

うちなー 沖繩をて、あたる 戦 忘らさん為にん、平生から 戦

ぬいちゃしー事と、れきし 歴史んかい、ぬく とーる 本当ぬ事、

つ子孫ん達んかい聞かち行ちゆしえー、わたたうぶ
つ子孫ん達んかい聞かち行ちゆしえー、我達大

人ぬ達たましどやいびーる。

なま わ 我んねー、くぬ 戦ぬいちゃしー事にちーて、あらた
今、我んねー、くぬ戦ぬいちゃしー事にちーて、改

みて、考ーて、童ん達んかい紙芝居さーに語て聞か

ちよーいびーん。

うちなーたび 沖繩旅

(y)(小平市)

くん谷ちはちにち じゅーににち うちなーたび
9月8日から12日まで、沖繩旅さびたん。我ん

ぬー前に沖繩んじ暮らちよーいびーたくと、うんに

ーに、見ちやい楽しだいっし、今付きて忘らん所、

なーー 回行じ見てわどやるんで、たび ぬ前から思とー

いびーたん。

うちなーくち ちか 沖繩口ん使やびたん。すい 首里をて、わ い ちゅつ
沖繩口ん使やびたん。首里をて、我ん入つて四

たい 人っし、むるうちなーくち 沖繩口っし、はなし
人っし、諸沖繩口っし、話さびたん。

みな、くりからん^{うちなーぐち}沖繩口^{はなし}っし話^{てーしち}すし大切^いにっし行きわ

どやるん^ゆで^{かんげ}言う、いぬ考^いやいびーたん。

わ我んね^{うむ}ー思^{うちなーぐちえ}やびたん。沖繩^{ふんとー}口^{とーちよー}ー本^{ちか}当^{ちか}や東^{ちか}京^{ちか}を^{ちか}て^{ちか}使

ゆる物^{むの}ーあらん、沖繩^{うちなー}を^{うちなー}と^{ちゆ}ーて^{ちか}沖繩^{ちか}人^{ちか}ぬ使^{ちか}ゆしど

むと^{むと} ^{しがた}元^{しがた}ぬ姿^{しがた}やあらにん^{しがた}て。

わ我んね^{ちゆたー}ーうん^{あど}人^{うちなーぐち}達^{うちなーぐち}ん^{うちなーぐち}かい、くりから^{あど}後^{うちなーぐち}ん^{うちなーぐち}沖繩^{うちなーぐち}口^{うちなーぐち}っし

はなし話^{はなし}すし^{ふる}広^どみて^ど取^どらしわ^どど^どやし^どが^どん^どで^ど願^どて、^どたる^どが^どき^ど
とーいびーん。

いちゆまぬ^{いちゆまぬ}系^{へーわ}満^きん^{ねん}かい^いある^い平^い和^い祈^い念^い堂^いん^いかい^い行^いち^いや^いび^いたん。

んま^{ちゆ}ん^{ちよーえん}かい^いや「清^いら^い蝶^い園^い」^いで^い言^いち、「オオ^いゴ^いマ^いダ^いラ」

んで^{ちゆ}ぬ^{ちゆ}清^{ちゆ}ら^{ちゆ}さ^{ちゆ}る^{ちゆ}は^{ちゆ}べ^{ちゆ}る^{ちゆ}ち^{ちゆ}か^{ちゆ}な^{ちゆ}とーい^{ちゆ}び^{ちゆ}ーん。

く^わま^{うむ}を^{うむ}て^{うむ}我^{うむ}ー^{うむ}が^{うむ}思^{うむ}た^{うむ}し^{うむ}え^{うむ}ー、^{うむ}は^{うむ}べ^{うむ}る^{うむ}ぬ^{うむ}事^{うむ}ー^{うむ}あ^{うむ}い^{うむ}び^{うむ}ら^{うむ}ん。

たてむんめー^{たてむんめー}建^{ちゆ}物^{ちよーえん}前^ゆん^{ふだ}かい^{ふだ}「清^{ふだ}ら^{ふだ}蝶^{ふだ}園^{ふだ}」^{ふだ}で^{ふだ}言^{ふだ}る^{ふだ}札^{ふだ}ぬ^{ふだ}あ^{ふだ}て^{ふだ}ど^{ふだ}や^{ふだ}い^{ふだ}び^{ふだ}

ー^かる。「ち^かゆ^から^か」ー、^かあ^かま^かく^かま^かを^かて、「美^から^か」^かん^かで^か書^かか

つとーい^わび^わーし^わが、^わ我^わん^わね^わー^わ合^わ点^わー^わ成^わい^わび^わら^わん。「ち^わ

ゆ^{ちゆ}ら^{ちゆ}さん^{ちゆ}」^かや「清^から^かさん^か」^かぬ^かど^かい^かび^かー書^かち^か方^かや^かい^かび^かーる。

く^くん^{うちなーたべ}ど^{うちなーたべ}ぬ^{うちなーたべ}沖^{じよーどー}繩^{じよーどー}旅^{じよーどー}ー、^{じよーどー}あ^{じよーどー}ー^{じよーどー}ち^{じよーどー}ち^{じよーどー}ん^{じよーどー}上^{じよーどー}等^{じよーどー}、^{じよーどー}ど^{じよーどー}ぬ^{じよーどー}ー^{じよーどー}ま^{じよーどー}ぬ^{じよーどー}ー

ん^{ぐと}さん^{ぐと}如^{ぐと}、^{ぐと}行^{ぐと}会^{ぐと}い^{ぐと}欲^{ぐと}さ^{ぐと}た^{ぐと}る^{ぐと}方^{ぐと}々^{ぐと}ど^{ぐと}ん^{ぐと}御^{ぐと}行^{ぐと}会^{ぐと}ー^{ぐと}拜^{ぐと}て、^{ぐと}何^{ぐと}

ぬ^{さわ}障^ねい^ねん^ね無^ねー^ねん^ねび^ねー^ね旅^ねや^ねい^ねび^ねー^ねたん。

かわさき^{かわさき}を^{んかし}て^くぬ^く昔^くぬ^く暮^くらし^く 座^く霸^く光^く子^く (川^く崎^く市^く)

あ^あち^あぬ^あば^あん^あじ^あぬ^あ節^あん^あかい^あ入^あや^あび^あたん^あや^あー^あたい。

く^くす^くー^くよ^くー^くう^くが^くん^くじ^くゆ^くー^く御^く衆^く様^く御^く頑^く又^くや^くみ^くし^くえ^くー^くび^くー^くが^くや^くー。

く^くぬ^く頃^くん^くし^くぬ^く世^くぬ^く中^くー、^く変^くわ^くら^くん^く悪^くさ^くる^く景^く気^く、^く災^く

ー、^くう^くり^くか^くら^く色^く々^くな^く間^く違^くー^く事^くぬ^く続^くち、^くち^くや^くー^く成^くと^くー

い^いび^いー^いが^いや^いー。た^いた^いた^いた^いた^いた^い肝^いふ^いい^いち^いや^いぎ^いぬ^い多^いく^い成^いと^い
い^いび^いー^いん。

さて、^い「^い川^い崎^い沖^い繩^い県^い人^い会^い・^い婦^い人^い部^い」^いぬ^い昔^いぬ^い様^い子^いー、

ち^いや^いー^いや^いた^いが^いん^いち、^いし^いー^いじ^いや^い方^いか^いら^い習^いや^いび^いたん。

ま^いじ^いえ^いー、^いゆ^いれ^いー^い小^い起^いく^いち、^い色^い々^いな^い事^いに^いち^いー^いぬ^い知^いら

し^い聞^いち^いや^いい^い聞^いか^いち^いや^いい^いっ^いし、^い互^いー^いに^い助^いき^いと^いー^いみ^いし^いえ^いー

た^いん^いで^いぬ^い事^いや^いい^いび^いー^いん。

う^いり^いか^いら、^い沖^い繩^いぬ^い踊^いい^い習^いー^いち^いや^いい^い習^いた^いい^いっ^いし、^い楽^いし^い

で^い暮^いら^いち^いよ^いー^いみ^いし^いえ^いー^いた^いん^いで^いぬ^い事^いや^いい^いび^いー^いん。

また、^い「^い沖^い繩^い青^い少^い年^いを^い励^いま^いす^い集^いい^い」^いそ^いー^いな^い所^いん^いう

や^いぎ^いと^いー^いい^いび^いー^いた^いん^いで^いぬ^い事^いや^いい^いび^いー^いん。

さ^いき^いや^いま^いさん^いで^い言^いる^い御^い方^いー、^い秋^い田^い生^いま^いり^いや^いい^いび^いー^いし^いが、

う^いち^いな^いー^いぐ^いち^いえ^い ^いい^いっ^いべ^いー^いじ^いょ^いー^いじ^い ^い沖^い繩^い口^いー^い杯^い上^い手^いや^いみ^いし^いえ^いー^いび^いー^いん。

ぬ^いー^い何^いが^いど^いん^いや^いれ^いー、^い婦^い人^い部^いを^いて^い皆^いが^い沖^い繩^い口^いっ^いし^い話^いす^いし

ち^い聞^いち^い覚^いた^いん^いで^いる^いあ^いた^いい、^い皆^いど^いま^いじ^いゆ^いん^い触^い合^い易^いく^いそ^いー

い^いび^いー^いて^いー^いん^いで^いー^いや^いー^いたい。

う^いん^いに^いね^いー、^い家^い人^い衆^いぬ^い誰^いが^いな^いが^い日^い曜^い日^いに^いま^いー^いし^いみ^いし

え^いー^いい^いび^いー^いね^いー、^い銀^い行^いや^い休^いみ^いや^いい^いび^いー^いて^いー^いく^いと、^いす

っ^いえ^いー^いす^いる^い筈^いん^いで^いち、^い誰^いん^いで^い言^いち^いえ^いー^い無^いー^いら^いん^い銭^い持^い

ち^い寄^いて、^い繰^いり^い回^いし^いみ^いそ^いー^いち^いゃ^いん^いで^いぬ^い事^いや^いい^いび^いー^いん。

わ^いく^いい^いね^いさん^いぬ^い女^い親^いー、^い良^いー^い編^い物^い組^いど^いー^いみ^いし^いえ^いー^いび^いー^い

ー^いたん。^い胴^いぬ^い男^いん^い子^いぬ^い物^いと、^いう^いぬ^い男^いん^い子^いぬ^い貧^い相^いそ

ー^いる^い同^い土^いぬ^いセ^いー^いタ^いー^いま^いで^いん^い揃^いー^いち、^い組^いで^い取^いら^いし^いみ^いそ^いー

ち^いゃ^いん^いで^いぬ^い事^いや^いい^いび^いー^いん。

胴^いぬ^い童^いん^い達^い事^いする^いう^いっ^いび^いっ^いし、^いや^いっ^いど^いか^いっ^いど^いそ^いー

たる世ど^{ゆー}やたる^{はじ}筈やいびーしが、な一、うぬ^{うむ}思い^{ぶか}深さ
んかい^{ちむんじゆ}肝動かさりーしえ一、我ん^わびけーのーあらん
で^{うむ}思とーいびーん。

っ人^{ちゆ}ぬっ^ふ子^{ごー}ん^ふ胸^{ぐとかな}ぬっ^く子^とどい^くぬ^と如^と愛^とさす^とん^とで^とる^と事一、
たどい^{なま}今^{ゆー}ぬ^{ゆー}世^{ゆー}やら^{ゆー}わん、一杯^{いっぺーなら}習^いい^びちーや^んで^{うむ}思と
ーい^びーん。

「天^{てん}ぬ^{はん}半^ぶ分^のー女^めぬ^な達^{ちやー}が^うや^ぎとーん。」^くで^る言^ば葉

ぬ^{どー}通^いい、^{おきな}沖^な縄^わ県^た人^か会^ら・^{じよ}女^{せい}性^ぶ部^がん^{わし}忘^たとーる^か宝^らん^で

思^{うま}ー^{そー}り^たる^ま精^{しう}魂^び 覓^ん出^んじ^やち、^{けん}県^{じん}人^ふ会^い始^はみ、^ち地^{いき}域^ぬぬ

っ^{ちゆ}人^び触^れ合^て大^ー切^しに^いっ^し行^ちち^らや^ーら^いたい。

会報に出てきた語句の説明（沖縄語辞典による）

- ・い^くち^とあし^とー^く事^と：痛々しいこと。かわいそうなこと。
- ・何^ま処^ーが^なん^でる^る：或る。
- ・ま^まじ^ゆん^ん：一^じ緒^に、共^に（に）
- ・畜^{ちく}生^{しよー}ぎ^ーな^ー：畜生のようなさま。無慈悲なさま。
- ・一^い杯^{っぺー}：たいそう。非常に。たいへん。
- ・肝^{ちむ}：心。心情。情。「くくる（心）」よりもはるかに多く使う。
- ・ち^くゆ^と系^とー^く事^と：大変な事。えらい事。
- ・受^うき^ふ返^{んと}答^と：受け答え。応答。
- ・目^み口^{くち}：表情。顔つき。
- ・取^とい^う受^うき^{ゆん}ゆん^ん：受入れる。了解する。
- ・言^いち^{はん}や^いい^{はん}反^{はん}ち^{はん}や^いい^{はん}：受け答え。
- ・～が^ちー^ち：ながら。つつ。
- ・志^し情^{なさ}き^さ：なさけ。思いやり。また、男女の愛情。
- ・灘^{なだ}安^{やっ}さん^ん：おだやかである。心安い。
- ・～^かび^かち^かー^か：べき。「書^かち^かび^かち^かー^か：書^かく^かべき^かこと。」

- ・ま^まん^まぐ^まる^ま：ころ。おおよその時を示す。
- ・揃^{すり}ー^{すり}：集まり。集会。会合。
- ・平^ふ生^{じー}：平常。ふだん。
- ・た^たま^まし^ま：銘^{めい}銘^{めい}の^の分^{ぶん}。持^もち^ち分^{ぶん}。
- ・た^たる^たが^がき^きゆ^{ゆん}ん^ん：当^あて^てに^にす^する^る。頼^たみ^みに^にす^する^る。
- ・は^はべ^べる^る：蝶。
- ・あ^あま^まく^くま^ま：あ^あち^ちこ^こち^ち。あ^あち^ちら^らこ^こち^ちら^ら。
- ・あ^あー^あち^ち：天^{てん}気^き。
- ・ど^どめ^めー^めま^まめ^めー^め：う^うろ^ろた^たえ^える^るこ^こと^と。ま^まご^ごま^まご^ごす^する^るこ^こと^と。
- ・御^お行^ぎ会^がー^が拜^{まが}む^{むん}ん^ん：お^お会^{かい}い^いす^する^る。お^お目^めに^にか^かか^かる^る。
- ・ば^ばん^んじ^じ：真^まっ^ま最^{さい}中^{ちゆう}。た^たけ^けな^なわ^わ。
- ・間^ま違^{ちが}一^{ぐと}事^と：(道^{だう}徳^{とく}的^{てき}に) 間^ま違^{ちが}っ^{ぐと}た^たこ^こと^と。
- ・た^たっ^たた^たた^たた^た：次^じ第^{だい}次^じ第^{だい}に^に。
- ・肝^{ちむ}ふ^ふい^いち^ちや^やぎ^ぎ：気^き掛^かかり^り。心^{しん}配^{ぱい}。不^ふ安^{あん}。
- ・し^しー^しじ^じや^や方^{かた}：年^{ねん}上^{じやう}の^の人^{にん}た^たち^ち。先^{せん}輩^{ぱい}た^たち^ち。
- ・ゆ^ゆれ^れー^れ：無^む尽^{じん}講^{かう}。頼^た母^ぼ子^し講^{かう}。
- ・う^うや^やぎ^ぎゆ^{ゆん}ん^ん：さ^ささ^さえ^える^る。援^{えん}助^{じゆ}す^する^る。
- ・何^ぬが^がど^どん^んや^やれ^れー^れ：何^{なに}と^とな^なれ^れば^ば。な^なぜ^ぜな^なら^ら。
- ・あ^あた^たい^い：く^くら^らい^い。ほ^ほど^ど。
- ・～^び触^れ合^あ：付^つき^き合^あい^い。(隣^{りん}触^{しゆ}合^あー^あ：隣^{りん}と^との^の付^つき^き合^あい^い)
- ・ま^まー^ます^すん^ん：死^しぬ^ぬ。な^なく^くな^なる^る。
- ・す^すっ^すく^くー^すす^すん^ん：困^くる^る。
- ・繰^くり^り回^ます^すん^ん：融^{じゆう}通^{つう}す^する^る。や^やり^りく^くり^りす^する^る。
- ・組^くむ^{むん}ん^ん：組^くむ^む。編^へむ^む。
- ・う^うっ^うぴ^ぴ：そ^その^の大^{だい}き^きさ^さ。
- ・や^やっ^やど^どか^かっ^かと^と：や^やっ^やと^と。よ^よう^うや^やく^く。
- ・思^{うむ}い^{ぶか}深^{ふか}さ^さ：情^{じゆう}が^が深^{ふか}い^い。
- ・～^びけ^けー^けん^ん：ば^ばか^かり^り。
- ・い^いぬ^ぬ如^{ぐと}：同^{どう}じ^じよ^よう^うに^に。同^{どう}じ^じに^に。
- ・た^たど^どい^いあ^あん^んや^やら^らわ^わん^ん：た^たと^とえ^えそ^そう^うで^であ^あっ^あて^ても^も。

*本文では語句は活用されていますので、ここに示しました語句とは必ずしも一致していません。

会報の表記について その②

前回は沖縄文字の使用及び、[?]で示される声門破裂音と[´]で示される声門破裂音でないことについて説明しました。今回は会報の表記についてまとめたいと思います。

会報の表記

・表記

ひらがなを使います。ただし外来語はカタカナで表記します。

音を引きのばすことを示す符号、即ち長音符号として「ー」を使います。

・漢字の使用

この会報では、基本的に沖縄語の語句の読みの音と漢字の読みの音が似ていて、しかもその漢字の持つ意味が沖縄語の語句の意味と一致しているものを使用しております。

ただし、例外として^{あきが}男など慣用語とされているものについては、そのまま使うことにします。

例(1) ^{ふーじー}平生 X (^{ふーじー}普通)

例(1)に示したのは「^{ふーじー}」という語句ですが、漢字で表記する場合「^{ふつう}普通」を使って

「^{ふーじー}普通」としているのを見かけます。

ちなみに広辞苑では「普通」の意味は

- 1・ひろく一般に通ずること。
- 2・どこにでも見受けられるようなものであること。なみ。一般。

となっております。そして沖縄語辞典で「^{ふーじー}」の意味は

平常。ふだん。

であります。即ち平常というのは、「つねひごろ、ふだん、平生」でありますから、沖縄語の「^{ふーじー}」に対しては、例(1)の印のよ

うに「^{ふーじー}平生」としたほうが適切です。

「普通」を使ってしまうと、「^{ふーじー}」の意味が間違っ解釈され、これから沖縄語を勉強する方々に正しく言葉が伝わらないという阻害要因になります。

そして該当する漢字が見つからない場合は、無

理に使うのをやめて、仮名で表記するようにします。

市販されている書物などを見ますと表記の統一性がなく、書く人に任せて漢字を勝手に使っているのを見かけますが、今後国語の教育にも悪影響を及ぼすものと考えています。

・振り仮名の付け方

振り仮名はすべての漢字に付けるようにします。つけないと共通語として読まれるからです。また数字についても、振り仮名を付けます。沖縄語では数字の読み方も異なる場合があるからです。

(A) 普通のケース

例(2) 「御^う祝^{ゆゑー}」または「御^う祝^{いゑー}」

X (御^{うい}祝^{ゑー})

例(3) 「今日^{ちゅー}」

X (今^ち日^{ゆー})

例(4) 「言^{くご}葉^ば」

X (言^{くご}葉^ば)

漢字の傍らにその読み方を示すためにつける仮名が振り仮名ですから、例(2)、例(3)、例(4)の印のように表記します。

しかし例(3)の場合は共通語でも「今日^{きょう}」になりますので、必ずしも漢字の傍らに揃えてなく「今」と「日」の間に「ゆ」を入れて沖縄語で「今日^{ちゅー}」としています。

X印は間違っているものです。

事務局(編集室) 國吉(眞)

事務局から

今回も貴重な話題を寄せていただき、有難うございました。

多くの方々に私どもの活動を知っていただくためホームページの内容を更新してあります。どうぞ御覧ください。

お問い合わせ

事務局 國吉眞正

電話 044-988-8065

Fax 044-988-8065

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

ど[tu] 　どい(鳥) うど(音) みーど(夫婦)	ゝゑ[hwe] 　ゝゑー(南) にゝゑーでーびる(有難うございます)
と[to] 　とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ[he] 　へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど[du] 　どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や[?ja]* 　やー(君、お前) やん(言わない)
ど[do] 　どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や[ja] 　やー(家) やん(である)
て[ti] 　てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	ゆ[?ju]* 　ゆん(言う)
て[te] 　てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ[ju] 　ゆんたく(おしゃべり)
て[di] 　てーび(筆) んーびー(喉) てきやー(秀才)	よ[?jo]* 　よーいー(おさな子)
で[de] 　でーじ(大変なこと) ちょーでー(兄弟)	よ[jo] 　よーんなー(ゆっくり)
か[kwa] 　かじ(火事) かっちー(ごちそう)	わ[?wa]* 　わー(豚) わーちち(天気)
か[ka] 　かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ[wa] 　わーむん(私のもの)
か[gwa] 　にんかん(念願) かんく(頑固)	わ[?wi]* 　わー(上) わーりきさん(面白い)
が[ga] 　がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	み[wi] 　みが(男) みなぐ(女)
か[kwi] 　かー(声) さっかー(咳) かゆん(呉れる)	ゑ[?we]* 　ゑーきー(金持ち) ゑんちゆ(ねずみ)
き[ki] 　きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	ゑ[we] 　ういゑー(お祝) わじゃゑー(災い)
か[gwi] 　かーく(越来「地名」)	ん[?N]* 　んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ)
ぎ[gi] 　かーぎ(容ぼう)	ん[N] 　んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなど(港)
か[kwe] 　かー(鍬) からじかー(髪きり虫)	い[i]* 　いん(縁) いだ(枝)
け[ke] 　けー(かゆ) ちけー(使者)	い[?i] 　いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
か[gwe] 　かったい(ぬかるみ)	ち[?u]* 　ちど(夫) ちーじ(さとうきび)
げ[ge] 　げー(害) にげー(願い)	う[?u] 　うど(音) うーび(帯)
か[hwa] 　かー(葉) なーか(那覇)	え[?e]* 　えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は[ha] 　はる(畑) はぎもー(荒地)	え[?e] 　えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
か[hwi] 　かじゃい(左) かーど(いるか)	お[?o] 　おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ[hi] 　ひやみかすん(えい、と言う)	を[?o] 　をーじ(王子) をーれー(往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方

(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 　どい(鳥) ×どい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。